



令和5年5月15日

各位

トモニホールディングスグループの令和5年3月期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和5年3月期（令和4年4月1日～令和5年3月31日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 令和5年3月期（令和4年4月1日～令和5年3月31日）連結業績

当期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金の増加により資金運用収益が増加したことに加え、株式等売却益の増加によりその他経常収益が増加したこと等により、前期比9,519百万円増加して79,854百万円となりました。経常費用は、人件費及び物件費の減少により営業経費が減少したものの、外貨調達に伴う外国為替売買損及び国債等債券売却損の増加によりその他業務費用が増加したこと等により、前期比7,971百万円増加して59,174百万円となりました。その結果、経常利益は前期比1,547百万円増加して20,679百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比1,106百万円増加して14,168百万円となりました。

当期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は前期末比447億円減少して4兆5,513億円、純資産残高は前期末比16億円増加して2,473億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は前期末比847億円増加して4兆1,468億円、貸出金残高は前期末比1,654億円増加して3兆3,953億円、有価証券残高は前期末比363億円減少して6,915億円となりました。

		令和5年3月期	
			前期比
損益	経常収益	79,854百万円	9,519百万円
	経常費用	59,174百万円	7,971百万円
	経常利益	20,679百万円	1,547百万円
	親会社株主に帰属する当期純利益	14,168百万円	1,106百万円
		令和5年3月期末	
			前期末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	45,513億円	△447億円
	純資産	2,473億円	16億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	41,468億円	847億円
	貸出金	33,953億円	1,654億円
	有価証券	6,915億円	△363億円
	自己資本比率（国内基準）	8.86%	0.02%

(2) 令和6年3月期第2四半期累計期間（令和5年4月1日～令和5年9月30日）及び通期（令和5年4月1日～令和6年3月31日）連結業績予想

次期（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）におきましては、有価証券関係損益及び与信関連費用の計上を保守的に見積もっていることに加えて、ベースアップ等による人件費の増加及びデジタル化等投資による物件費の増加を見込んでいること等により、以下の連結業績を予想しております。

① 令和6年3月期第2四半期累計期間

（単位：百万円）

	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益
令和6年3月期第2四半期累計期間	8,150	5,600

② 令和6年3月期通期

（単位：百万円）

	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
令和6年3月期通	15,950	10,800

2. 徳島大正銀行

(1) 令和5年3月期（令和4年4月1日～令和5年3月31日）単体業績

当期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び株式等売却益が増加したこと等により、前期比7,895百万円増加して43,305百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益及び役員取引等利益が増加したこと等により、前期比683百万円増加して30,339百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前期比1,492百万円増加して12,713百万円となりました。

経常利益は、有価証券関係損益が減少したものの、前期比697百万円増加して11,224百万円となり、当期純利益は、前期比264百万円増加して7,612百万円となりました。

当期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前期末比452億円増加して2兆3,151億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前期末比463億円増加して2兆4,360億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前期末比780億円増加して1兆9,052億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.15%となりました。

金融再生法開示債権額は、前期末比5,235百万円増加して37,980百万円、総与信に占める割合は1.96%となりました。

		令和5年3月期	
			前期比
損益	経常収益	43,305百万円	7,895百万円
	コア業務粗利益	30,339百万円	683百万円
	コア業務純益	12,713百万円	1,492百万円
	経常利益	11,224百万円	697百万円
	当期純利益	7,612百万円	264百万円
	本業利益	9,991百万円	3,605百万円
	与信関連費用	1,172百万円	95百万円
		令和5年3月期末	
			前期末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	24,988億円	△547億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	23,151億円	452億円
	総預り資産	24,360億円	463億円
	貸出金	19,052億円	780億円
	有価証券	3,718億円	△204億円
	自己資本比率（国内基準）	8.15%	0.08%
不良債権	金融再生法開示債権額	37,980百万円	5,235百万円
	総与信に占める割合	1.96%	0.20%

(2) 令和6年3月期第2四半期累計期間（令和5年4月1日～令和5年9月30日）及び通期（令和5年4月1日～令和6年3月31日）単体業績予想

①令和6年3月期第2四半期累計期間

(単位：百万円)

	経常利益	中間純利益
令和6年3月期 第2四半期累計期間	4,450	3,100

②令和6年3月期通期

(単位：百万円)

	経常利益	当期純利益
令和6年3月期 通	8,800	6,050

3. 香川銀行

(1) 令和5年3月期（令和4年4月1日～令和5年3月31日）単体業績

当期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金が増加したこと等により、前期比1,454百万円増加して28,772百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益及び役員取引等利益が増加したこと等により、前期比545百万円増加して23,067百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前期比905百万円増加して8,810百万円となりました。

経常利益は、有価証券関係損益が減少したものの、前期比812百万円増加して8,835百万円となり、当期純利益は前期比687百万円増加して6,228百万円となりました。

当期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前期末比390億円増加して1兆8,362億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前期末比370億円増加して1兆9,750億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前期末比870億円増加して1兆4,985億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.46%となりました。

金融再生法開示債権額は、前期末比2,203百万円増加して28,143百万円、総与信に占める割合は1.83%となりました。

		令和5年3月期	
			前期比
損益	経常収益	28,772百万円	1,454百万円
	コア業務粗利益	23,067百万円	545百万円
	コア業務純益	8,810百万円	905百万円
	経常利益	8,835百万円	812百万円
	当期純利益	6,228百万円	687百万円
	本業利益	6,387百万円	1,530百万円
	与信関連費用	536百万円	△65百万円
		令和5年3月期末	
			前期末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	20,480億円	101億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	18,362億円	390億円
	総預り資産	19,750億円	370億円
	貸出金	14,985億円	870億円
	有価証券	3,182億円	△156億円
	自己資本比率（国内基準）	9.46%	△0.11%
	不良債権	金融再生法開示債権額	28,143百万円
総与信に占める割合		1.83%	0.04%

(2) 令和6年3月期第2四半期累計期間（令和5年4月1日～令和5年9月30日）及び通期（令和5年4月1日～令和6年3月31日）単体業績予想

①令和6年3月期第2四半期累計期間

（単位：百万円）

	経常利益	中間純利益
令和6年3月期 第2四半期累計期間	3,650	2,500

②令和6年3月期通期

（単位：百万円）

	経常利益	当期純利益
令和6年3月期 通	6,700	4,500

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島大正銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-0102
TEL：088-656-1118
TEL：087-812-5132